

広島城

「鯉城」という別名で呼ばれるこのそびえ立つ要塞は、1589年から1599年にかけて築城されました。城はその城下町とともに、産業都市として繁栄する広島の基礎を築きました。この城の畏敬の念を誘う石垣、天守閣、三重の堀（現存する堀は1本のみ）は、広島市を含む現在の中国地方の大部分を占める地域を統治した有力武将の毛利輝元（1553年～1625年）が築いたものです。太田川のデルタ地帯にある城の立地は、平地のほうが築城にも防御にも比較的都合がよいとの理由で選ばれました。

輝元は、日本の統一へとつながる1600年の関ヶ原の合戦後、自らの牙城を去ることを余儀なくされました。広島城はやがて浅野家に渡り、武士が統治する徳川時代が終わりを告げ、1868年の明治維新後に近代日本が始まるまで、浅野家の所有は続きました。20世紀に入り、城は大日本帝国軍の主要施設となりました。元々の天守閣は1931年に国宝に指定され、第二次世界大戦末期の年月には、連合国の襲撃に備えてここに軍が駐留しました。

1945年の原爆で木造の城は破壊されました。1958年に天守閣がコンクリートで再建され、現在では主に近代以前の工芸品を展示したり、武士の甲冑を身に着けるなどの体験型アクティビティを提供したりする博物館となっています。天守閣からの広大な眺めは、広島で見られる素晴らしい景色のひとつです。